

東葛飾高校百周年記念式典 生徒代表挨拶

この東葛飾高校は、昨年2024年に創立から百年の大きな節目を迎えました。これまで多くの生徒がこの学校で学び、青春を送り、そして人生における大切な友人や経験を得てきましたことを思うと、このような節目の式典でご挨拶させていただくことを、大変恐縮に思うとともに、光栄に思います。また、多くのご来賓の皆様に、私たちの大切な東葛飾高校の百歳をお祝いしていただき、生徒一同心よりお礼申し上げます。

さて、皆さんには、東葛飾高校が創立された百年前の日本がどのような社会であったか想像できますか？普通選挙法の成立や治安維持法の制定など、いかにも歴史の教科書に載っているような出来事が起ったのが、百年前のことでした。ちょうどその頃に、当時の中学校として創立されたのが、現在私たちが通う東葛飾高校です。

日本全体でも激動の時代だったこの百年ですが、東葛飾高校も多くの変化を経験してきました。特に、学生運動が盛んであった時期には、生徒の自治活動に対する「自主自律」の精神が光り、東葛ならではの歴史が紡がれてきました。例えば、制服が廃止されたり、自由研究が開始されたりしました。驚くべきことに、合唱祭が一度廃止されたこともあったようです。廃止の翌年、より生徒主体の形となって復活しました。これらの変化は、今の私たちが「東葛らしさ」として恩恵を受けています。私たちが今過ごしている日常は、多くの先輩方の熱意と努力によって支えられていることを、忘れてはなりません。

しかし、最近では自治離れが嘆かれ、実際に生徒全体の自治への関心は弱まっているように思われます。時代の変化を鑑みると、自治離れが起きてしまうのも仕方がないかもしれません。ですが、この変化は決してネガティブで悪いものではないと思います。その時々の生徒に合った活動が行われるのが、自治だと思うからです。ただ、大切なのは、生徒全員が、向き合うべき時に自治と向き合うことです。今の私たちに、それができていると言えるでしょうか？先輩たちが獲得してきた権利を、蔑ろにはしていないでしょうか。無理やりではなく、自分のために自治に参加することもできます。例えば、生徒全員が参加する生徒総会は、年に三回の貴重な機会であり、生徒全員に関わる重要な議案が審議されるため、私たち全員で自治に向き合うことができます。個人の時間を削らずとも、用意された時間で精一杯考えることも、立派な自治なのではないでしょうか。今の私たちは、自由が日常になっているがゆえに、その日常の価値に気づけていない面があるかもしれません。この百周年という節目に、もう一度私たちの持つ多くの自由、東葛らしさに目を向けてみませんか。

そして、東葛の歴史はこれからも紡がれていきます。私たちの先輩方が獲得してきた権利を、未来の東葛生にも残していく責務が、私たちにはあります。時には必要な改革を加え、私たちに合った自治の姿を、未来にも残していきたいものです。私たちが当たり前に送る青春は、きっと想像以上に貴重で、この学校だから作れる最高の思い出です。

最後に、この百年の間、東葛高校を支えて下さったすべての皆様に感謝を申し上げて、生徒代表の挨拶とさせていただきます。

令和七年十一月七日
生徒代表 前期生徒会長 笠井空美